「日々の理科・田中」（第 64 号） 2014 (H26),-8,22

「道端の真っ赤なもの」

自転車で走っていると、自動車の車窓で見るのとは、まったく風景が違って見えます。道端のちょっとしたものにも細かく気付くようになるのです。教材研究には自転車がいいですね。先日も朝と夕方の２回、１時間ずつ細エリング（って指輪屋さんか？ちがうっ！）・・・サイクリングをしてきました。すると、群馬県道 58 号線の道端にありました！真っ赤なものが！

「道端の真っ赤なもの」　色といい形といい、どう見ても「完熟トマト」です。

私は最初トマトが落ちているのかと思いました。このあたりには野菜直売所も多いので、きっと誰かが落としたのだと思いました。しかしよく観察してみるとトマトなんかではなく、「タマゴタケ」というキノコでした。

タマゴタケ（卵茸）は、初夏～秋に雑木林や道端に、ごく普通に見られるキノコです。私の職場の遊具のそばや「イタドリ広場（学生会館の中庭）」にも、毎年発生します。（キノコの場合、「発生する」という表現をよく使います。）マツの木が近くにあると、よく発生します。

「先生、先生、先生、（３回連呼というところが重要）真っ赤なキノコがあった！毒キノコ、毒キノコ、毒キノコ！（これも３回強調というところが重要）」
と理科準備室に持ち込むのは、大抵はタマゴタケです。その時、もし根元に白い袋状のもの（ツ

ボ）がちゃんとあったら、子どもをほめてあげます。キノコの正しい採集のしかたをちゃんと知っているからです。この白いツボは外套膜といって、タマゴタケが地中の「幼菌」のころ、キノコ（子実体）全体を包んでいた膜です。タマゴタケを含め、テングタケ科のキノコは、この「ツボ」を有することが、見分けの上で非常に重要な特徴なのです。

「タマゴタケ」
Amanita hemibapha

初夏～秋に、マツがある雑木林の林床で、ごく普通に見られるキノコです。根元の白いツボ（外套膜）を突き破って、子実体が生長したことがわかります。この写真は、形態全体がよくわかるように、土を少し掘って撮影しました。
なかなか堂々たる、キノコ然とした姿。別名「シーザー（帝王）のキノコ」と呼ばれます。

この真っ赤なタマゴタケ、警戒色バリバリで、いかにも毒々しいキノコです。しかも茎まで毒々しいまだら模様。まるで、「俺を食うなよ！」と言わんばかりの姿です。しかしタマゴタケは無毒で、むしろ優秀な食用菌です。私も食べたことがありますが、少なくともヒラタケよりもおいしかったです。キノコの味を決めるのは、「食感」と「アミノ酸の質」と言われます。タマゴタケは「食

感」は今一つなのですが、味はいいキノコだと思います。

　さて、このタマゴタケ、教材（最近は「学習材」という子ども主体のことばが流行）としてもナカナカ優秀です。生長の様子を教室で観察できるのです。「オクラの生長」「アサガオの生長」は、与那国町立比川小学校から、稚内市立大岬小学校まで、全国津々浦々で行っているでしょう。しかし、「タマゴタケの生長」はきっと２校（本校ともう一校）でしかやってないと思います。

　菌類にとって「キノコ（子実体）」は、いわば花か実のようなものです。「胞子を作って拡散させるための器官」といってもいいでしょう。菌の本体（菌糸体）は、大部分は地中にあります。その菌糸は竹の地下茎のように互いにつながっていて、そのところどころに子実体を作り、地上に顔を出すわけです。菌の種類によっては、木材に菌糸を伸ばすものもあります（木材腐巧菌といいます）。そう考えると、キノコは大部分の時期を、地中か樹木の中で過ごしていることになります。

　タマゴタケも例外ではありません。タマゴタケを１本見つけたら、周囲を見渡してください。落葉を除ければ、およそ半径５メートル以内に必ずいくつか見つかります。うまくいけば、外套膜が破れていない真っ白な「たまご」もあるはずです。まさに「タマゴタケのたまご」です。もし、教材として使うなら、「タマゴタケゲットっ！」と、あわてて採ってはいけません。スコップ（根掘り）と植木鉢を用意してください。野外でその場で用意できなければ、何か土を掘る道具と、丈夫なポリ袋やタッパーでも代用できます。

「タマゴタケの採集方法と生長観察」

キノコを採る時に、菌糸から切り離さないように、土ごと掘り上げます。植木鉢の形に合わせて、土を台形にカットすると、うまくいきます。「たまご」の場合も同じです。そのまま植木鉢に植えて、水を与えれば、教室で数日間は生長の様子を観察できます。

この方法は、多くのキノコで試せます。コツは、できるだけたくさんの土を一緒にとって、菌糸ごと採集すること、これから生長しそうな小さいキノコ（幼菌）を選ぶことです。自由研究の課題なんかにも面白そうですね！

「生長したタマゴタケ」

ベニテングタケ（毒）とよく混同されますが、ベニテングタケは茎が真っ白で、ツボ（外套膜）の破片が傘の上にイボ状に点在するので、はっきり見分けられます。タマゴタケは傘の裏側（ヒダ）も鮮やかな黄色です。傘の下にぶらさがっているものは、幼菌の時にヒダを覆っていた膜で、「ツバ（鍔）」と呼ばれています。

＊次のページにタマゴタケの絵（水彩画）があります。

（お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋）

タマゴタケ
Amanita hemibapha